

プラディア® 「培地」

PLADIA

プラディアは、根管内の細菌簡易培養検査を簡便に行えるよう調製された、チオグリコール酸を含む液体培地（アンプル入り）です。

【使用上又は取扱い上の注意】

1. 使用上の注意

- (1) 本品は注射剤として使用しないで下さい。
- (2) 冬期又は冷室に保存中、細かい粒状物が析出して混濁したように見えますが、寒天や発育促進物質の低温による析出です。試験前にお湯に浸し加温すれば、容易に溶解します。
- (3) アンプル培地にペーパーポイントを投入する場合は、ペーパーポイント全体が培地に浸るようにして下さい。
- (4) 根管充填の時期決定については、他の関連する検査結果や臨床症状等に基づいて総合的に判断して下さい。

2. 取扱い上の注意

(1) 使用時

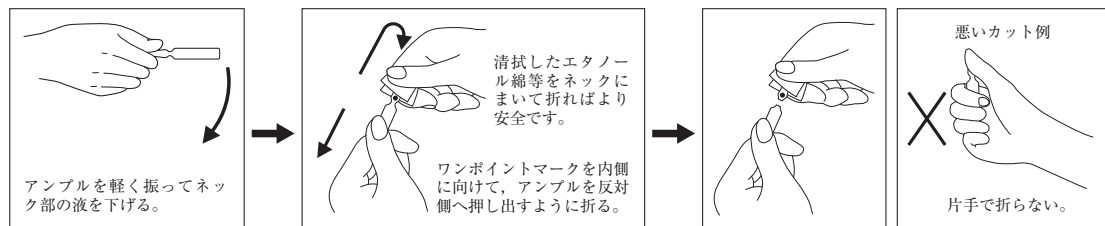
感染の危険を避けるために使い捨て手袋を着用して下さい。

(2) アンプルカット時

本品はワンポイントアンプルですが、アンプルのカット部分をエタノール綿等で清拭してからカットして下さい。その際、カット部分で手指を傷つけないよう十分に注意して下さい。

片手で折るとケガをすることがあるので避けて下さい。また、ワンポイントマークからずれて折り曲げたり、斜め方向に引っばるように折り曲げたりはしないで下さい。

〈参考：アンプルカット方法〉



3. 廃棄上の注意

使用後のアンプル培地、アンプルキャップ等は汚染に十分注意の上廃棄して下さい。

培養後のアンプル培地はあらかじめ準備しておいた3～5%クレゾール石鹼液の容器内に培養液をあけるようにしながら浸漬し、消毒してから廃棄して下さい。

アンプルキャップはそのまま浸漬して処理しますが、火焰によって滅菌することもできます。

【保管方法及び有効期間等】

保管方法：室温保存

使用期限：5年（外箱に表示）

【包装】

培地（アンプル）：100管

他にプラディア用として以下の製品が販売されています。

- | | | |
|-----------|-----------------|----------------|
| ・ペーパーポイント | 100本（50本×2） | 室温保存，5年（外箱に表示） |
| | （アルミキャップ大 1個含む） | |
| ・レサズリン紙 | 100枚（25枚×4） | 室温保存，5年（外箱に表示） |
| ・アンプルキャップ | 20個 | |

※【製品情報お問い合わせ先】

昭和薬品化工株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋二丁目17番11号

TEL：0120-648-914 FAX：03-5579-9592

＜受付時間＞ 9:00～17:30（土・日・祝日・当社休日を除く）

参 考

【細菌簡易培養の手技】

〈準備する器具〉

細菌簡易培養検査に通常使用される器具、小型フラン器、乾熱滅菌器等。

〈前 処 置〉

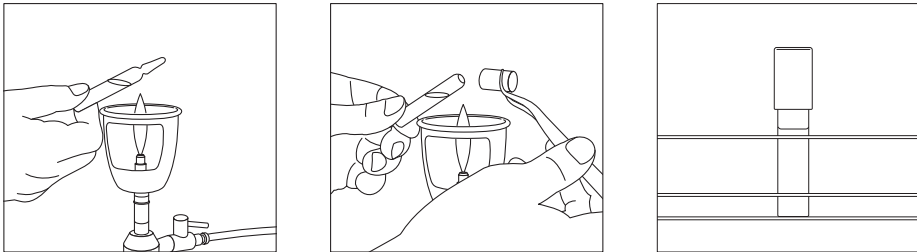
1. 被検歯にラバーダム防湿を行い、患歯及びその周囲のラバーシートを消毒する。
2. 滅菌したパー又はエキスカベータで仮封材を除去した後根管内に包摂した綿栓を取り出す。
(根管内に残存する消毒液があれば、これを取り除く処置を必ず行うこと。)
3. 滅菌したピンセットを用い、ペーパーポイントで、根管を清拭して残存する消毒液を除去すること。
綿栓を用いてもよいが、いずれの場合でも乾熱滅菌器などを用い、その都度必ず滅菌してから根管を3～4回反復清拭する。
綿栓ブローチはあらかじめ数本滅菌しておくとう便利である。
ピンセットは使用する前に必ず火焰を通して滅菌する。

〈細菌を取扱う場合の注意〉

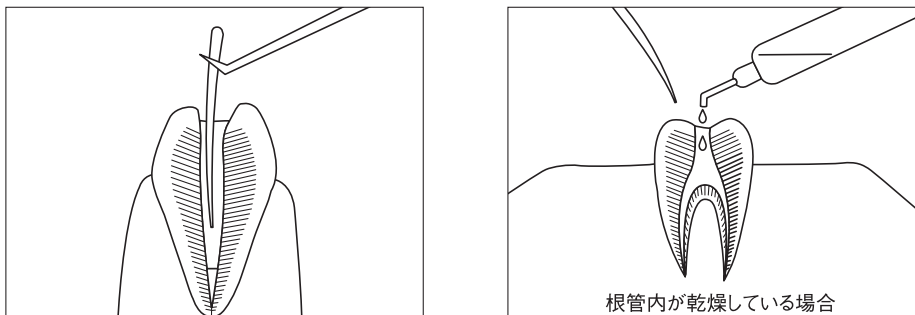
- ①部屋の窓を閉めて埃や風を入れない環境を作る。
- ②手や器具はその都度十分に滅菌して他の雑菌の付着を防ぐ。
- ③空気中に浮遊している雑菌の混入を防ぐために、操作はガスの炎の上で行う。

〈使用 方 法〉

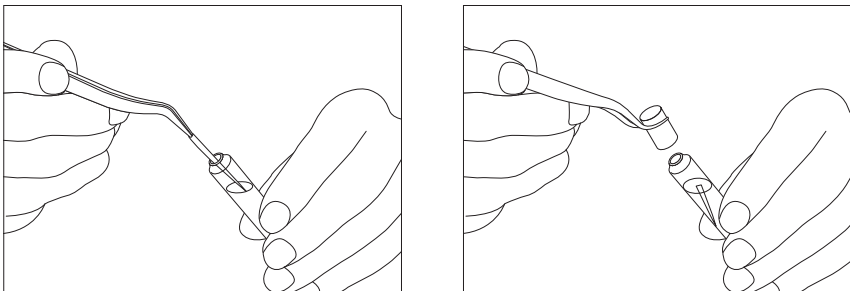
1. アルコール綿又はガスの炎でネックを消毒し、アンプルをカットする。アルミ製のキャップはピンセットではさみ、ガスの炎で中と外を十分に滅菌し、カットしたアンプルにかぶせ小型の試験管たてに立てておく。



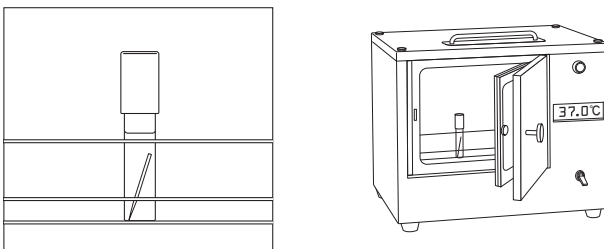
2. 滅菌したペーパーポイントをピンセットで取り出し、根管内に深く挿入し、約1分間放置する。
根管が乾燥している場合は、根管内に1～2滴の滅菌生理食塩水をミニウムシリンジで滴加してからペーパーポイントを挿入すること。



3. 根管内のペーパーポイントを取り出し、あらかじめ準備しておいたアンプル培地にペーパーポイントを投入し、次いでキャップをかぶせる。
アンプル開口部から雑菌が入らないよう注意しながら操作する。



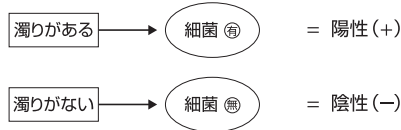
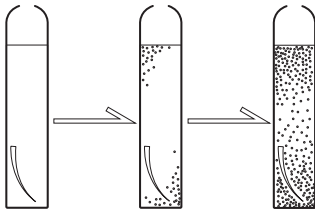
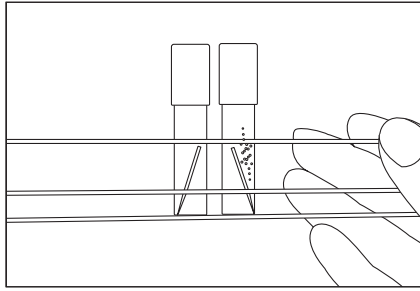
4. ペーパーポイントの入ったアンプル培地は小型の試験管たてに立て、37℃に保たれているフラン器に入れ1～2昼夜(16～48時間)培養する。



5. 培養後、アンプル培地を取り出し、混濁の有無を調べる。

アンプル培地が、混濁しているときは陽性 (+)、混濁していないときは陰性 (-) と判定する。

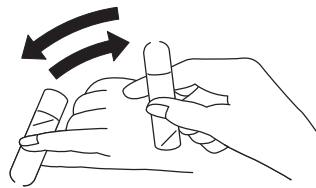
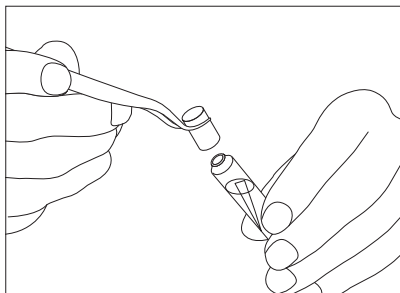
未開封のアンプル培地を1本並べて比較対照すると、混濁の識別が容易になる。



6. 培養後の判定で、菌の育成が僅かか又は菌が存在しない場合等、肉眼的には陽性 (+)、陰性 (-) の判定がしにくいときは、レザズリン紙を1枚投入する。なお、投入する前に必ずアンプル培地を数回反復倒立させること。

アンプル培地の開口部は小さいので液の流出はない。

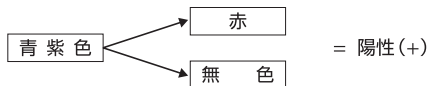
この操作はアンプル培地の内容を均一にするとともに酸素の混入を促し、レザズリン紙の変色を誤りなく識別するために行うものである。



7. レザズリン紙の青紫色が、赤色又は無色に変わったときは陽性 (+) と判定する。一方、青紫色のままであれば陰性 (-) と判定できる。アンプル培地中のレザズリン紙の変色は、およそ2~3分で判定できる。

判定が陽性 (+) の場合は、根管治療の原則とされる「根管の清掃、拡大」「根管の消毒」を十分行う必要がある。

判定が陰性 (-) の場合は、根管治療の原則とされる「気密な根管充填」に適した根充材を用い、確実に充填を行う。なお検査は数日の間隔をおいて2回行うのが常法とされている。



培地中の変色は、およそ2~3分で判定できる。

〈レザズリンの反応について〉

レザズリンの反応は細菌が生育すると、色素を還元する性質をもった物質が培地中に生成される原理を利用している。

